

「ゲノム編集タマゴ(アレルギー低減卵)の臨床試験に関する公開質問状」の回答書

2024年1月23日
キューピー株式会社

質問1 この読売新聞の報道は事実ですか。事実である場合、具体的にいつ頃から、どのような方法で臨床試験を開始しますか。

回答1 読売新聞の報道は事実です。今後臨床試験に関しては、今年から実施予定で、方法については新聞記事記載の通り、試験に同意頂いた方を対象に安全に配慮して経口負荷試験を実施する予定です。

質問2 当該ゲノム編集タマゴは、厚生労働省により届出受理されていません。厚労省による確認も経ないで、臨床試験を実施することは問題ではないですか。臨床試験にあたり、事前に同省と相談していますか。

回答2 臨床試験を実施するにあたっては、厚生労働省に事前の相談を行っております。また、ゲノム編集食品に関する届出に必要な安全性の確認も、広島大学との共同研究で終了しています。

質問3 ゲノム編集技術による畜産動物への遺伝子の改変は、アニマルウェルフェアの観点から行うべきではないとする指摘があります。オボムコイドをノックアウトすることで、ニワトリの健康な生育になんらかの問題が生じる可能性も考えられます。畜産の持続可能性および倫理的な観点から、この点についてどのように考えていますか。

回答3 鶏の健康への影響は重要な要因と考えており、数年にわたって生育状態を観察しています。これまで鶏の生育にもたらす影響について、問題は認められていません。今後も慎重に確認を重ねる予定です。

質問4 さまざまな調査において、ゲノム編集食品を食べたくないという消費者は少なくないことがわかっています。にもかかわらず、ゲノム編集食品の開発を行うのはなぜですか。

回答4 卵アレルギーはわが国で一番多い食物アレルギー疾患であり、多くの患者様やそのご家族も大変ご苦労されています。そういった方々が少しでも安心して食生活を送れるようになり、QOLが向上することを願い研究を進めています。安全と安心に関する社会コミュニケーションについて、これからも十分に考慮して行く考えです。

以上